

2023年6月実績概要（メモ）

（2023. 7. 20）

誘導品の定修及び生産調整の広まりにより、エチレンともども各製品で大幅な減産となる。

1. 生産動向

イ) エチレン 382, 800トン

前月比 ▲ 5.6% (▲22, 900トン)

前年同月比 ▲11.2% (▲48, 300トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2 %	—
定修要因等	+ 3.7 %	▲ 2.0 %
能力増減	—	+ 0.4 %
稼働率変動	▲ 6.1 %	▲ 9.6 %
生産増減率	▲ 5.6 %	▲ 11.2 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月81.4%* → 当月77.1% ← 前年同月84.4%
定修プラント：前月1社1プラント → 当月1社1プラント ← 前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数減とともに定修規模差や稼働率要因から、LDPE、HDPE、PP、PS、SM、MMAモノマー、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの14品目がマイナス。EO、EGなどの3品目のみはプラスとなった。

前年比は、稼働率要因や定修規模差等から、LDPE、HDPE、PS、SM、塩ビモノマー、MMAモノマー、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエンなどの13品目がマイナス。PP、塩ビ樹脂、EO、EGの4品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、稼働日数の減少とともに定修規模の拡大や稼働率要因により、LDPE、HDPE、PP、PSともに大幅な減産となった。

前年比は、定修規模の増加や稼働率要因から、LDPE、HDPE、PSはマイナス、PPは、定修規模が縮小したこともあり辛うじてプラスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドは引き続き持ち直しの動きが続いているとともに、国内製造業における増産計画や大企業製造業の景況感も改善が見られている。その一方で、消費者物価の上昇が未だ続いており、食品をはじめ生活必需品の値上げから、消費行動面での下押し圧力が働いている。

樹脂の出荷は、前月比は、連休があった前月に対し、ユーザー産業の稼働日数の関係あり、LDPE、HDPE、PP、PSともに増加が見られた。

前年比は、4樹脂揃って、昨年9月以降、前年割れの状態が続いており、数量面での持ち直しの動きは見られていない。分野別の動向では、ほとんどの出荷分野で前年を下回っているが、PPの輸送機械部材での増加が続くほか、PSの健康飲料関係容器等の包装材用途では、前年を上回るケースも見られ始めている。

ハ) 輸出

極東の合成樹脂需要は、持ち直しがみられず、市況も下落基調で推移している。前月比は、LDPE、PPはプラスとなったが、HDPE、PSはマイナス。前年比は、HDPE、PP、PSで前年割れとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PP、PSともに減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPEは前月並み、HDPE、PSは低下、PPのみは僅かながら上昇した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PSともに高め水準にあるが、在庫量自体は減少が進みつつある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		5月末	6月末
LDPE	▲21, 700	3.6	3.6
HDPE	▲28, 900	4.2	4.0
P P	▲31, 100	3.2	3.3
P S	▲8, 200	2.1	2.0

前月からの修正を*で付記

以上